

## — 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）に向けて —

校長 稲田 正平

「一月は往ぬる、二月は逃げる、三月は去る」といわれるように、一月から三月の三か月間はいろいろやる事が多くあっという間に時間が過ぎてしまいます。これまでの三学期を振り返ると、一月には2年生の館岩自然の教室、1年生の川越校外学習と学年の行事が行われ、3年生は私立高校の受験を経て、二月は公立高校への願書提出と受検がありました。また、この二か月間は新型コロナウイルスの変異株による感染も全国的に急増するとともに、以前よりも幼児や小学生も罹患するケースが多く、本校でも学級閉鎖の措置をとる場面もありました。感染予防にも気を遣う生活も相まってあっという間に三月を迎えることとなりました。

この三月は卒業式という大きな行事が控えています。3年間の中学校生活を終えるということだけではなく、9年間の義務教育を修了するという意味もあり、長い人生の中でも一つの節目であるといってもよいでしょう。我々、中学校の教員は各教科の学習指導に加え、学級指導や生徒会活動、学校行事などをとおして中学生の自立を促すことを職務にしています。入学式の時には、まだ幼さが感じられる1年生が、3年間の中学校生活で身も心も大人びて卒業する姿を見ると、本当にその成長の著しさを感じます。15日(火)の卒業式では今年の3年生も立派な姿で旅立ってくれるであろうと期待しています。

さて、先日は今年度三回目の学校評議員会並びに学校運営協議会準備委員会を開催しました。来年度の学校運営協議会（コミュニティ・スクール）設置に向けて大詰めの段階になってきました。『木崎コミュニティ』で木崎中生に付けたい力は、①人とのつながりを豊かにする力 ②粘り強くチャレンジする力 です。これを基に来年度の学校教育目標や重点項目を説明させていただきました。具体的には、学校の果たすべき使命の一つとして学習指導の充実が挙げられます。まず学習の動機づけを意識してこの学習は実生活でどのように役立つのかなどを教えながら、我々教員が自分の教える教科を生徒に「好き」といわれるようにしたいこと、次に豊かな人間関係作りを目標にして特別活動等を充実させていきたいことを説明させていただきました。そして来年度の学校経営ビジョン並びに学校目標と重点項目等の仮承認をいただきました。このことは、学校運営協議会の発足に際し、校長は学校運営協議会から教育課程の編成に関すること、学校経営計画に関すること、組織の編成に関することなど全5項目の承認を得なければならないことに由来しています。この仮承認を経て来年度に設置される学校運営協議会にて正式に承認をしていただく予定です。さらに木崎中生が『木崎コミュニティ』という地域の中で活躍することができるように、来年度は地域のクリーン活動や避難所訓練のボランティア体験等を年間計画に位置付けていきたいとも考えています。平成29年に告示され、今年度から全面実施となった学習指導要領は大きな教育改革につながるといわれています。また学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置により学校と保護者、地域の方々とも新たな関係を構築していくこととなります。どうかこれらのことをご理解くださり、これからの学校と保護者の皆様、地域の皆様との連携を深めていき、木崎中生の健全な育成のために互いに共働して歩んでいきたいと願っています。

新型コロナウイルスの感染が広がり約2年が経ちました。今は新型コロナウイルスの変異株による感染の拡大により、まん延防止等重点措置が3月6日まで延長されています。皆様も感染予防に努めながらご自愛くださいますように。やまない雨はありません。